

報道関係者各位

十和田市現代美術館 2017年春の企画展のご案内

村上隆のスーパーフラット現代陶芸考

2017年3月11日(土) - 5月28日(日)



図版1 Photo by Mikiya Takimoto

平素より、十和田市現代美術館の活動に対して格別のご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

十和田市現代美術館では、現代の美術、芸術をより幅広く紹介していきたいと考え、工芸、クラフトも重要な内容と位置付けています。その第一弾企画展として、「村上隆のスーパーフラット現代陶芸考」を開催いたします。

アーティストとしてだけでなく、コレクター、キュレーター、ギャラリストとしての顔を持つ村上隆。村上が近年とくに興味を持っているのが、日本の現代陶芸です。

村上は、陶芸をコレクションするだけでなく、現代陶芸のショップ Oz Zingaro を持ち、海外のアートシーンにも紹介を試みてきました。また、そのスケールで話題を呼んだ横浜美術館での「村上隆のスーパーフラット・コレクション-蕭白、魯山人からキーフアーまで-」(2016年1月30日~4月3日開催)にも、約400点もの現代陶芸が出品されました。

本展では、村上コレクションから、青木亮、安藤雅信、村田森、小嶋亜創らの現代陶芸作家の作品、また、奈良美智、小出ナオキ、青島千穂、大谷工作室、ガブリエル・オロスコ、ローズマリー・トロッケル、クララ・クリスタローヴァらの現代美術作家による陶芸作品など、25作家(予定)、約300点を展示します。

利休にはじまる茶の湯、柳宗悦を中心とした民藝運動、デパート陶芸からクラフトフェアまで、多様に展開する陶芸の世界から、日本の価値と美のありようを汲み上げる村上の頭の中の陶芸史を初公開。陶芸の文脈を再考しつつ、「芸術とはなにか」に迫る、村上隆キュレーションによる美術館初の陶芸展です。ぜひご期待ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【開催概要】

展覧会名	「村上隆のスーパーフラット現代陶芸考」
会 期	2017年3月11日（土）－ 5月28日（日） * オープニング 3月10日（金）16:30～
開館時間	9:00-17:00（入場は閉館の30分前まで）
休 館 日	月曜日（祝日の場合はその翌日） ただし、4月24日（月）、5月1日（月）は開館。
会 場	十和田市現代美術館
観 覧 料	企画展＋常設展セット券 1000 円。企画展の個別料金は一般 600 円。 団体（20名以上）100円引。高校生以下無料。
主 催	十和田市現代美術館
特別協力	有限会社カイカイキキ
後 援	東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会

【村上隆プロフィール】

1962年、東京生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。日本画において初の博士号を取得。制作工房、ギャラリー等を含めたアートの総合商社である有限会社カイカイキキ代表。国際的に最も活躍している現代美術家の一人。2008年には『タイム』誌が選ぶ「世界で最も影響力のある100人」に選出される。世界各地の美術館に招かれて自身の個展を開催、映画監督も務め、若手作家の育成・プロデュースも手がける。2015年、日本国内では14年ぶりとなる個展「村上隆の五百羅漢図展」が森美術館（東京）にて開催。2016年には古美術から現代美術までの膨大なコレクションによる「村上隆のスーパーフラット・コレクション - 蕭白、魯山人からキーファーまで -」を横浜美術館（神奈川）にて開催、大きな話題を呼んだ。



図版 2 Photo by Chika

【出品作家】

青木亮、青島千穂、安藤雅信、アンドロ・ウェクア、上田勇児、大谷工作室、尾形アツシ、小野哲平、ガブリエル・オロスコ、上泉秀人、熊谷幸治、クララ・クリスタローヴァ、小出ナオキ、小嶋亜創、清水志郎、鶴野啓司、奈良美智、額賀章夫、浜名一憲、松下昌司、村木雄児、村田森、森岡成好、ローズマリー・トロッケル、渡辺隆之

（25作家（予定）五十音順）

*出品作家は変更になる場合があります。

【開催にあたって メッセージ：村上隆】

現代陶芸に興味を持ち始めて、10年以上の月日が経ちます。現代陶芸と同時に骨董も購入しながら、作家の特性やお店の特性を学び、かつ自分自身の嗜好性、問題意識も検証してきました。

購入し始めて5年ぐらいしたあたりで自分でもお店をやってみたくなくて、東京・中野でOz Zingaroという小さな陶芸、骨董のお店を開きました。継続的に展覧会をやっているわけではなく、自分が興味を持った作家さんの展覧会を、年間3本から4本だけやっています。Kaikai Kiki本社がある元麻布のギャラリーでも、陶芸の展覧会を年に1本開催しており、そこでは小野哲平、村田森、小嶋亜創などを扱ってきました。2016年には大谷工作室を展示し、2017年には尾形アツシさんを展示する予定です。

現代陶芸と付き合いなかでいろいろ感じてきて、最近のテーマは何かというと「越境」です。国にある固有の価値観を超えたり、ジャンルを超えたり、既存の価値観を超えてゆこうとすることに興味があります。

利休が日本に茶陶を伝播させた時、朝鮮から輸入したものを日本の茶器に仕立てていき、新しい価値、様式を産み出したり、柳宗悦が民藝運動によって、無名の陶工の作為的ではないモノへの当時のモノの見方を転倒させたり、そういった日本国内での「越境」もありつつ、柿右衛門などがオランダを輸出先とし、日本人の価値観と外国の人間の嗜好の融合をして「越境」していったりと、歴史を振り返ると幾つかの変節点がありました。

今、日本の陶芸の世界はどうなっているのか？

近過去を振り返ると、戦前から戦中、戦後においては、北大路魯山人、加藤唐九郎、荒川豊蔵、八木一夫らの現代陶芸作家、民藝、そして骨董が入り乱れての文化発展がありましたが、それらは1980年代後半のバブル経済の勃興と1990年代の崩壊によって、一旦消失しました。この戦前からの陶芸の世界観は大きなムーブメントでしたが、しかし、どれをとっても海を越えていくことはなく、日本国内での価値観一辺倒で、その中で縛られていたと言っても過言ではありません。

バブル経済崩壊後は、作家、お店ともにマーケットの異常な高騰に反省し、価格を極限まで抑えるようになり、ユーザーベースの価格帯や使いやすさの考えられた形状などが、10年あまりの間にポピュラリティを持ちました。1990年から2010年ぐらいまでの20年間でその文化は大きな花を開き、2010年以降はお隣の中国や台湾などへの輸出にも繋がってきています。

戦後の陶芸の世界は、アニメ・マンガと同じく、日本の国内で、質量、流通の形式、全てが熟成してきており、かつ煮詰まって来ているようにも思えます。まさに今、陶芸の世界は、アニメ・マンガと同じように、国外へ羽ばたく方向性の模索が始まった過渡期だと思います。

そういう陶芸の世界の変節点の裂け目を、現代美術家、村上の目、思考を通して、独特すぎる形で紹介したいと思います。今回チョイスするのは、僕が画商やコレクターとしての立場から、深いコミュニケーションを果たした作家さんたちです。海を渡っていく陶芸、もしくは日本の陶芸の引力圏内に残って更に深度を深めようとする陶芸。そういった変節点にある陶芸作品の未来の発展形を妄想してもらいたいと思います。

2016年12月 村上隆

【 作品紹介 】

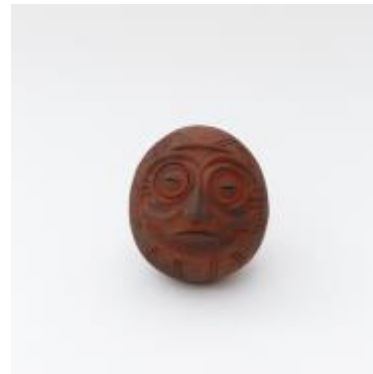
本企画では村上隆のコレクションより、国内外の現代陶芸家、現代美術家の陶芸作品を紹介いたします。図版は出品作家、出品作品の一部です。(25作家(予定)、約300点)



図版3 上田勇児《壺》2015
直径25×28.5×口径11cm
Yuji Ueda
陶芸家。1975年滋賀県生まれ、同地在住。



図版4 大谷工作室《寝る子》2016
40×36×33cm
Otani Workshop
美術家。1980年滋賀県生まれ、同地在住。



図版5 熊谷幸治《土偶・ダルマ》2010
17×20.5×21cm
Yukiharu Kumagai
陶芸家。1978年神奈川県生まれ、山梨県在住。



図版6 クララ・クリスタローヴァ
《犬と、眠る》2010
48×16×24cm
©Klara Kristalova, Courtesy of Galerie Perrotin
Klara Kristalova
美術家。1967年ブラハ(旧チェコスロヴァキア)
生まれ、スウェーデン在住。



図版7 小嶋亜創《大壺》2014
直径34×52.5×口径21cm
Aso Kojima
陶芸家。1978年京都府生まれ、長野県在住。



図版8 奈良美智《舌出しの子》2010
28×37×28cm ©Yoshitomo Nara
Yoshitomo Nara
美術家。1959年青森県生まれ。



図版9 浜名一憲《壺》2015
直径39×35×口径14.5cm
Kazunori Hamana
陶芸家。1969年大阪府生まれ、千葉県在住。



図版10 村木雄児《飴釉破れ壺》2016
直径36×31×口径16cm
Yuji Muraki
陶芸家。1953年神奈川県生まれ、静岡県在住。



図版11 村田森《破れ壺》2013
90×65×48cm
Shin Murata
陶芸家。1970年京都府生まれ、同地在住。

*画像の貸し出しをご希望の際は担当までご連絡ください。

*画像1点のみでの掲載となる場合は、メインビジュアル(表紙掲載の図版1)とさせていただきます。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com